

## 闘春 2018



全日本鉄道労働組合総連合会

執行委員長

榎本 一夫

組合員・家族の皆さん、また、日頃より連帯とご協力を頂いています各界・各層の皆様、新年のお慶びを申し上げます。

いよいよ、憲法改悪が政治日程に上がりました。国会勢力は与野党を中心に8割以上の議員が憲法改悪に賛成の態度を示し、この勢力は今や不動の地位を固めて、いつでも発議が可能な状況下です。

したがって、国民投票において過半数以上の国民を、憲法改悪に反対できる勢力へと組織化しなければなりません。そのためには、より具体的に取り組み課題を提起しなければなりません。

JR総連として、改憲阻止を明確にした学習会をはじめ、職場討議資料を作成し、早晚各単組に提起をいたします。各単組においても、創造的な取り組みをお願いします。

この取り組みは同時に、改憲阻止を掲げる勢力に対する弾圧を許さない闘いと結合させることが極めて重要になります。各単組は、すべての取り組み過程の中から、組織性のある団結力強化を図る取り組みを要請します。

国鉄改革から30年が経過し、再び会社存続の危機に陥っている会社が存在しています。JR北海道をはじめ東日本会社、四国会社、九州会社は、こぞって一日の輸送人員2,000人未満(四国は1,000人)の線区を發表しました。

これら会社に共通していることは、自社による経営を放棄して経営形態の変更、つまり線路の廃止・バス転換、もしくは上下分離などをめざしていることは、容易に想定することができます。しかも会社は「持続可能な交通体系」をめざすことを理由に、地方自治体や利用者へ負担と犠牲を求めます。

JR総連は、地方自治体と利用者へ負担を強いる施策には断固として反対し、自社による経営を求めていきます。

また、東日本会社、東海会社、西日本会社は年次有給休暇の申し込みに、時季変更権の行使や36協定を含む労働協約違反が日常的に発生しています。つまりコンプライアンス違反が状態化しているといっても過言ではありません。

JR総連は、組合員の「安全・健康・ゆとり・働きがい」を切り捨てる施策に反対し、希望と未来の持てる職場環境をつくるために共に奮闘していきます。本年もよろしく願います。

# JR総連加盟単組委員長 年頭所感

職場を原点に労働組合らしく  
たたかいを推し進めよう！

北海道旅客鉄道労働組合

中央執行委員長

鎌田 寛司



新年あけましておめでとうございます。

JR総連に結集する組合員、ご家族の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

JR北海道は、2016年11月、資金繰りに窮する状況から抜け出すため、「単独では維持することが困難な線区」として、10路線13線区を公表しました。しかし、赤字の最大要因は経営安定基金運用益の大幅目減りです。そのしわ寄せとしての負担を、利用者や自治体に求めるのは筋違いです。私たちは、56市町村への説明・要請行動や4万枚のチラシ配布行動を展開し、地域の足である鉄道を守るため、組合の考えを訴えてきました。

引き続き、「崩れた国鉄改革のスキームの是正」「経営安定基金運用益の確保策の措置」を掲げ、組合員一丸となつてたたかっていく決意です。

第48回衆議院選挙は、野党共闘が成就せず、自民・公明が改憲発議に必要な3分の2議席を確保する結果となりました。私たちは「平和か戦争か」の分水嶺に立たされています。「改憲阻止」「安倍政治の暴走を止める」ため、より広範な連帯・共闘をつくりだすことに全力をあげていきたいと思ひます。課題は山積しています。安全再確立、労働条件の向上も重要な課題です。2018JR総連春闘にお

いても多くの成果をかちとるため、そして「安全・くらし・平和の危機」を突破し、誰もが安心してくらせる社会の実現のため、JR総連にすべての力を結集し、ともに奮闘しようではありませんか！

労働者の「格差」を是正し、

「鉄路」と「平和」を守りぬき、社会貢献ができる東労組運動へと飛躍しよう！

東日本旅客鉄道労働組合

中央執行委員長

吉川 英一



明けましておめでとうございます。JR東労組は、昨年の17春闘は、「格差ベア」に終止符を打つために、全組合員が意思確認の一票

投票を貫徹し、実質上「スト権」確立を背景に「一律1000円」のベアを「回答指定日」に引き出し、JR総連春闘を牽引しました。

今18春闘の方針は「格差ベア」の根絶ですから、昨年2月の臨時大会において、代議員の総意で確認した「いつでもたたかえる体制」を組織力に、会社に対して、18春闘だけではなく、19春闘以降も「格差ベア」は行わないことを求めて、たたかい抜きます。

また、「平和」と「鉄路」を守るたたかいを結合させて取り組めます。安倍政権が目指している「憲法改悪」に対し「絶対反対」のたたかいを創りだします。

具体的には、憲法学者の小林節さんの講演集を討議資料として活用し、全職場で読み合わせ、国民投票で改憲絶対反対の意思を全組合員が示せるように意識を高めていきます。

さらに「利便性」「安全性」「福祉性」「観光性」を訴えて、次世代を担う組合員と共に、地域を回り声を集め、地方ローカル線を守り抜いていきます。

そして、この運動を「バトンゾーン」と位置づけ、地域住民と働く者が創りだす「鉄路」と「町の活性化」に繋げ、その先の定住人口の力で、交流人口を呼び込む、社会貢献が地域の皆さんと共に創りだせる労働運動へと飛躍していきたいと考えています。今年もJR総連と共にたたかう決意です。

平和を守り、働きやすい職場づくりを  
通じて、組織拡大を実現するぞ！

JR東海労働組合

中央執行委員長

小林 光昭



JR総連に結集する全ての仲間の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

昨年6月、安倍政権は、共謀罪を強引に可決成立させ、安保法、秘密保護法と合わせ、一連の「戦争法」を全て整備・完成させました。

10月の総選挙では、改憲派が8割を超え、改憲発議に必要な「3分の2」を上回る議席を確保し、今年中の国民投票の実施を目指し、議論を一挙に加速させていきます。私たちは、このような「戦争」のできる国づくりの最終段階とも言える状況を断固打開し、平和な世の中を実現するために、全ての仲間たちと連帯して奮闘する決意です。

一方、「働き方改革」の美名の下、長時間労働是正、年休取得率向上、派遣・契約労働者の待遇改善などが審議されようとしています。しかし、その実態は、「一億総活躍の実現」「企業が一番活動しやすい国づくり」と言われるように、労働者を締め付け、より低賃金で効率的に働かせるための法整備が目指されていると言っても過言ではありません。

私たちは、職場に山積する問題点の改善を目指し、職場から声を上げ、闘いを積み重ねることが重要であると考えています。

昨年末、慢性的な要員不足と繰り返される年休失効を解消するために、裁判闘争に立ち上がりました。職場からの闘いと合わせ、本年も当たり前の労働組合活動をしっかりと展開して参ります。

そして、それらの闘いを通じて、組織強化・拡大を目指していく所存です。

JR総連に結集する全国の仲間の皆さんと共に奮闘していく決意です。共に頑張りましょう。

**憲法改悪反対！  
安全で平和な社会の実現に向けてたたかおう！**

**JR西日本労働組合**

中央執行委員長 菅野 武男



新年のご挨拶を申し上げます。  
昨年の10月22日に実施された衆議院議員選挙結果は、残念ながら、自民・公明の両党で313議席を獲得し、定数の3分の2である310議席以上を与党が確保した結果となりました。また、改憲勢力は8割を占めたとも言われています。

選挙の過程では、安倍首相ら与党側は改憲にはできるだけ触れず、経済政策の成長を前面に打ち出し、またぞろ国民を欺きました。

一方、野党は選挙直前に民進党が分裂し、野党共闘が実現せず、安倍政治の継続を許してしまいました。そうした中にもあっても、全体としては、立憲民主党などをはじめとして、安保法制を前提とした憲法改悪には反対することを明確に打ち出し、多くの国民の支持を得ているのも事実です。このことは、憲法改悪に反対し、平和を希求する国民の意思が多々あることを示しています。

しかし、全体の情勢としては、衆参両院で憲法改正を決議できれば、次は国民投票です。2019年、夏の参議院議員選挙の時に国民投票が行われる可能性があるとも言われ、勝負の時は近づきつつあると言えます。

私たちJR西労は、引き続き、憲法改悪を許さず、平和を守るために、戦争政策に反対して闘っている地域の皆さんや関係する団体・個人との広範な連帯を創り出していくこととします。

他方、職場における課題も山積しています。のぞみ34号の台車亀裂の問題、車両の新検査体系導入の問題、乗務員の乗り組み基準に関する問題、三江線をはじめとした地方ローカル線廃止の問題、恣意的で不当な乗務不適に関する問題、不安全な企業体質を一新し、真の事故原因を究明する取り組み等々、

今年も愚直に、全ての取り組みを組織拡大へとつなげていくために奮闘する決意です。  
JR総連に結集するすべての仲間の皆様、今年もよろしくお願ひします。

**改憲阻止！すべての組合員の  
職場と仕事と生活を守り抜きます。**

**日本貨物鉄道労働組合**

中央執行委員長 相澤 武志



JR総連に結集する仲間の皆さん、新年おめでとございます。  
今年もJR貨物労組は、JR総連に結集する仲間と共に職場・地域から闘う決意を明らかにします。  
いよいよ安倍政権による憲法改悪の動向が、現実味を帯びてきました。最も早ければ、今秋にも改憲にむけた国民投票が実施されるとも言われています。多くの罪なき国民の血の犠牲の上に確立された、世界に誇る平和憲法を何としても守り抜かなければなりません。

私たちJR貨物労組は、想定される国民投票に向けて、組合員の権利意識・政治意識・仲間意識を高めつつ、すべての組合員の結集のもと、職場・地域から闘い抜きます。

また安倍政権は、労働者の働き方改革に着手しています。働き方改革は働き方改革に他なりません。JR北海道に見られる事業範囲の切り捨てに他なりません。今やJR他社に広がりつつあります。これらの動向は、組合員の職場と仕事と生活を奪うばかりか、先輩たちが血と汗と涙を流し、一個の革命とも称された国鉄改革の否定でもありません。

私たちJR貨物労組は、先輩たちの闘いに学び、組合員にとつての国鉄改革完遂＝JR貨物改革のたたかいを職場・地域から闘い抜きます。  
今ほど労働組合の真価が問われている時はありません。労働運動の原点は職場活動にこそあります。天王山となる2018年。すべての組合員の結集の

もと、未来に悔いを残さない闘いを展開します。共に頑張ろう！

**働きやすさと働き甲斐を両立した  
職場風土を目指して**

**鉄道総合技術研究所労働組合(鉄研労)**

執行委員長 間々田 祥吾



JR総連に結集する仲間の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

昨年、JRが発足して30年という区切りを迎えたことで、JRの発足から現在までの経緯、JR各社の現状など、JR全体に注目が集まった年でした。また、それと同時に、国鉄改革スキームについて、JR全体が今一度考える良い機会にもなったと思います。

鉄道総研では、各地で発生した集中豪雨によって、被害を受けた鉄道の復旧などの災害対応や防災や減災などの鉄路を守る研究開発に、組合員が力を入れて取り組みました。  
さて、鉄研労では、運動方針とした「働きやすさと働き甲斐を両立した職場風土」を目指して、組合員から「組合員のための働き方改革」に取り組んでいます。

全組合員との対話を目的として開催した世代別の意見交換会では、各世代の組合員に身近な課題を選定し、組合の取り組みについて議論を深めました。また、職場の働きやすさや働き甲斐に関する組合員の意識調査も一昨年に引き続き実施しました。

これらの取り組みは、今年も継続して実施する予定です。意見交換会や意識調査での結果を踏まえて、より良い職場づくりに向けた改革に取り組みしていきます。

今年も、微力ではありますが、鉄道の安全、発展およびJR総連の活動に貢献できるよう努力していきます。